Release and Installation Notes

CD17J 2003年1月

XRT/3d 3.2.0J ■ XRT/field 2.2.0J
XRT/gauge 1.2.0J ■ XRT/gear 3.2.0J
XRT/graph 4.2.0J ■ XRT/table 3.2.0J
XRT/pageformatter 2.2.0

はじめに 3

テクニカル･サポートとアップグレード 3
互換性 3
X とMotif 4
その他の機種対応版 4
ディスク容量 4
GUI ビルダとの統合 4
XRT に関係する機種固有の問題 4

License Agreement(使用許諾契約書) 6

1 その他の権利と制限 6
2 アップグレード 6
3 著作権の制限 6
4 契約の期間と終了 6
5 限定保証 6
6 責任の制限 8
7 税金と関税 8
8 U.S. Government Restricted Rights 8
9 輸出規制 8
10 パブリック･ドメイン･ソフトウェア 8
11 その他 8

XRT End-User License Agreement(XRT 使用許諾契約書) 10

A Binary Code License 10
B Source Code Lincense 10
C サポート 10

XRT/3d 3.2.0J リリースノート 11

新しい機能と前のバージョンからの変更点 11
問題 11

XRT/field 2.2.0J リリースノート 12

新しい機能と前のバージョンからの変更点 12
問題 13

XRT/gauge 1.2.0J リリースノート 13

新しい API 13
問題 14

XRT/gear 3.2.0J リリースノート 15

新しい機能と前のバージョンからの変更点 15
問題 16

TANGENT

XRT/graph 4.2.0J リリースノート 17
新しい機能と前のバージョンからの変更点 17
問題 17
XRT/table 3.2.0J リリースノート 18
新しい機能と前のバージョンからの変更点 18
問題 19
XRT/pageformatter 2.2.0 20
新しい機能と前のバージョンからの変更点 20
問題 21
XRT 製品のインストール 22
概要 22
XRTHOMEディレクトリについて 22
Step 1 製品のインストール 22
Step 2 XRTHOMEとPATH環境変数のセットアップ 23
Step 3 パスワードのインストール 24
Step 4 License Daemonの開始(ネットワーク・ライセンスの場合) 24
Step 5 XRTライブラリにライセンスを与える(shared licenseの場合) 24
Step 6 PPDファイルのインストール(XRT/pageformatterのみ) 25
Step 7 PPDファイルの設定(XRT/pageformatterのみ) 25
Step 8 Non-Xシステムへのインストール(XRT/pageformatterのみ) 25
Step 9 インストールのテスト(オプション) 25
Troubleshooting 26
XRT/pageformatterアプリケーションの配布 26
日本語のサポート 27
localeについて 27
FontListリソース 27

はじめに

このドキュメントは、XRT Product CD Volume 17J に収録されているソフトウェアのリリース・ノート及びインストール・ガイドです。 この CD-ROM には、次の製品が含まれています。

XRT Products	Motif対応 XRT PDS 2.2.0J　Motif対応 XRT/3d 3.2.0J Motif対応 XRT/field 2.2.0J　Motif対応 XRT/gauge 1.2.0J Motif対応 XRT/gear 3.2.0J　Motif対応 XRT/graph 4.2.0J Motif対応 XRT/table 3.2.0J　Motif対応 XRT/pageformatter 2.2.0
Online Documentataion	日本語マニュアル(Adobe Acrobat PDF フォーマット): xrt3d.pdf　xrtfield.pdf　xrtgauge.pdf　xrtgear.pdf xrtgraph.pdf　xrttable.pdf 英語マニュアル: en_docs.tar

ネットワーク上にCD-ROMドライブがない場合は、テープを代理店またはタンジェント・コンピューティングまでご注文ください。

テクニカル・サポートとアップグレード

XRT製品のご使用に関して問題やご質問等がございましたら、タンジェント・コンピューティング(email: support@tan.co.jp、fax: (03)3409-0147、tel: (03)3409-5364)までご連絡ください。**お問い合わせの際は、お客様のXRTライセンス・シリアル番号、OSとtoolkitのリリースレベル、X Windowサーバのタイプをお知らせください。**また、http://www.tan.co.jp/xrt/support/には、XRTに関する技術的な情報やFAQとその回答が掲載されていますので、参照してください。

XRT製品のご購入日より60日間は、技術的なサポートを無償で受けていただくことができます。この期間の終了後にも、技術サポートや製品のアップグレード配布を希望される場合は、XRT/careという年間保守サポート・サービスを購入していただく必要があります。詳細は、タンジェント・コンピューティングまでお問い合わせください。

互換性

次の表は、CD17J に収録されている XRT に必要な OS のリリース・レベルです。このレベルより新しいバージョンの OS は、前のバージョンとの互換性が保証されていれば使用することができます。

機種	OS(最低条件)	特記事項
Alpha/OSF	Compaq Tru64 4.x	
HP 9000 Series 700/800	HP-UX 10.x、11.x	
IBM RS6000	AIX 4.3.x(またはそれ以上), 5.x	
Intel x86対応LynxOS	LynxOS 3.0.1	
X86対応Linux	Linux Kernel Level 2.2.14 (Redhat 6)+glibc2.1	■ Metro LinkのMotif 2.1 ライブラリを使用した、Metro-Xでテスト済です。glib c2.0対応版は別途お申し込みください。
PowerPC対応LynxOX	LynxOS 3.0.1	
Silicon Graphics IRIX	IRIX 6.x	■ IRIX 6 リリースは、64-bit instruction set、32-bit addressingになっています。(`-mips3 –n32`)
SUN SPARC	Solaris 2.6, 7, 8, 9	
SVR4 on x86	Solaris または、SVR4.0/SVR4.2 と100%互換があるOS	■ SVR4は、Solarisでのみサポートされています。それ以外のプラットフォームにおける問題のサポートには別料金がかかる場合があります。

XRT/はSitraka Incの登録商標です。XRT、XRT PDS、XRT/3d、XRT/field、XRT/gauge、XRT/gear、XRT/graph、XRT/table、XRT/care、XRT/pageformatterは、Sitraka Incの商標です。その他の製品、名称、サービスは、該当する各社の商標または登録商標です。

X とMotif

XRTは、Motifバージョン1.2.xまたは2.0.x、2.1.x及びX11R5またはX11R6と互換性があります。Motifバージョン1.1またはX11R4とは互換性がありませんのでご注意ください。

その他の機種対応版

上記の表に記載されているOS以外にも、XRTが対応しているOSがあります。詳細は、タンジェント・コンピューティングまでお問い合わせください。

64-bit版 – SPARC Solaris 7、8及び9、IRIX 6.x、AIX 4.x及び5.x、HP-UX 11.x、IA64 Linux対応64-bit版は、これとは別のCDに収録されております。64-bit版の配布は、有効なXRT/careをお持ちのお客様が対象となります。

その他、x86対応Linux(glibc 2.0)やIrix (-o32 flag)もご希望があれば対応版をご用意いたします。

ディスク容量

次の表は、プリコンパイルされたデモを含む各 XRT 製品に必要な最大ディスク容量の一覧です。

	XRT PDS	XRT/3d	XRT/field	XRT/gauge	XRT/gear *	XRT/graph	XRT/table	XRT/page-formatter
Tru 64	89 MB	28 MB	22 MB	26 MB	25 MB	51 MB	30 MB	27 MB
HP 9000	76 MB	26 MB	20 MB	24 MB	22 MB	43 MB	27 MB	27 MB
Intel x86 LynxOS	146 MB	39 MB	31 MB	33 MB	30 MB	56 MB	38 MB	55 MB
IBM AIX	71 MB	23 MB	16 MB	19 MB	19 MB	39 MB	23 MB	28 MB
Linux (ELF) with glibc	57 MB	17 MB	13 MB	17 MB	14 MB	33 MB	20 MB	34 MB
PowerPC LynxOS	230 MB	63 MB	49 MB	55 MB	47 MB	90 MB	61 MB	86 MB
Silicon Graphics IRIX 6.x	98 MB	33 MB	25 MB	20 MB	29 MB	56 MB	35 MB	31 MB
Sun SPARC Solaris 2.6	100 MB	35 MB	25 MB	28 MB	28 MB	56 MB	36 MB	37 MB
SVR4 on x86	70 MB	28 MB	20 MB	26 MB	22 MB	34 MB	29 MB	19 MB

* Icon ライブラリ(おおよそ 7.0MB)は含まれていません。

注意: プリコンパイルされたデモをインストールしない場合は、必要容量は 80%程度に削減されます。

GUI ビルダとの統合

各 XRT 製品は、主要な GUI ビルダと統合して使用することができます。最新の統合パッケージに関する情報は、タンジェント・コンピューティング(www.tan.co.jp)または Sitraka(www.sitraka.com)の Web サイトでご確認ください。

これらの統合パッケージは、ソース・ファイルで入手していただくことができますので、ソースを変更したり、サポートされていない GUI ビルダや機種に対して使用することができます。Sitraka の Web サイト(www.sitraka.com)または FTP サイト(ftp.sitraka.com)には、Builder Xcessory、UIM/X、X-Designer の統合に関する FAQ 及びその回答が記述されていますので参照してください。

XRT に関係する機種固有の問題

HP 9000 700/800 - FDDI の問題

XRT のライセンス・プログラム(*xrt_auth* 等)は、FDDI ネットワーク・コントローラを使用しているマシンでは、正しく実行できません。HP は、この問題に対するパッチを提供していますので、HP のテクニカル・サポートへ、パッチ PHNE_4003 についてお問合わせください。

HP 9000 700/800 - NFS の問題

NFSでmountされているファイル・システムの実行可能ファイルで *xrt_auth* が実行される際、ファイル修正時間が正確にアップデートされません。ファイルは正しくパッチされていても、ファイルが実行されるとdisabledの状態になります。修正時間のアップデートには*touch*を使用してください。

IBM RS/6000、AIX 3.2 - テキストの切断

AIX Windows 3.2 Window Serverには深刻なバグがあり、オフ・スクリーンのpixmapの描画が正しく行われません。その最も顕著な現象として、テキストが切り取られたように表示されてしまいます。XRT製品はダブル・バッファリングにオフ・スクリーンのpixmapを使用します。IBMはこの問題(#IX25405)に対するパッチを提供していますので、IBMにPTF#U402887についてお問合わせください。

Linux、ネィテイブの Motif 2.1 の推奨

ネィティブのOSF/Motifの使用を推奨します。Motifのクローンでも XRTを使用できないことはありませんが、Motifのクローンとリンクされると、デモや例プログラムが実行できないことがあります。

また、OpenMotif 2.2はサポートされていません。XRT製品はOpenMotif 2.1.xには対応しますが、バージョン2.2には技術的な問題があるため現在サポート対象外です。

Univel UnixWare、コンパイルとリンク

SVR4版のプリコンパイルされたデモは UnixWare では実行できません。UnixWare でアプリケーションをコンパイルする時には、CPPFLAGS に“-I/usr/X/include”、LDFLAGS に“-L/usr/X/lib”、LDLIBS に“-lgen”を追加してください。

License Agreement(使用許諾契約書)

Standard Terms and Conditions(標準の条項と条件)

このドキュメントは、この製品をご購入されたお客様と Sitraka Inc.(以下、「Sitraka」といいます)の間で締結される法的な契約書です。本契約書において該当するソフトウェア(以下、「ソフトウェア」といいます)が収録された CD-ROM を含むパッケージを開封される場合や、Sitraka またはその供給者の Web サイトから「ソフトウェア」をダウンロードされる場合は、お客様が本契約書の条項や条件に従う必要があります。

お客様がこの契約書に記述されている条項に全て同意される場合にのみ、Sitraka は、お客様に「ソフトウェア」の使用を許諾いたします。「ソフトウェア」が収録された CD-ROM を含むパッケージを開封される前、または「ソフトウェア」をダウンロード、インストール、使用される前に、注意してこの契約書を全てお読みください。「ソフトウェア」が収録された CD-ROM を含むパッケージを開封、または「ソフトウェア」をダウンロード、インストール、使用された場合は、お客様がこの契約書をお読みになり、本契約書の条項に拘束されることに同意されたものとします。

もし、お客様がこれらの条項に同意されない場合は、パッケージの開封や「ソフトウェア」のダウンロード、インストール、使用をすることはできません。開封前のパッケージを Sitraka または供給者に返却し、「ソフトウェア」の受領後 30 日以内に Sitraka または供給者にご連絡ください。お客様がお支払になられた料金は返却されます。

1 その他の権利と制限

(a) リバース・エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルの禁止
お客様は、「ソフトウェア」をリバース・エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルしたり、他者に対してそのような行為を支援、教唆、許可することはできません。ただし、適用される法律により、これらの行為が明示的に許可されている場合は、この限りではありません。

(b) 守秘義務
お客様は、「ソフトウェア」及びそれに付随するドキュメンテーションに対しては、お客様ご自身の所有物に対する保護と同程度に、またその程度は一般的に十分とみなされる度合いを下回ることなく、その機密性を守秘する必要があります。

(c) 補償
お客様は、「ソフトウェア」を使用して作成されたアプリケーションと(または)Web ページの使用や配布によって紛争、訴訟、弁護士の費用が生じた場合は、それらから Sitraka 及び供給者を保護、擁護することに同意されたものとします。

(d) 貸与の禁止
お客様は、「ソフトウェア」を第三者に貸与、リース、賃貸することはできません。

(e) 複数媒体のソフトウェア
お客様は、「ソフトウェア」を二つ以上の媒体で受領されることがあります。媒体の種類やサイズに関わらず、お客様は、使用されるコンピュータに適したひとつの媒体のみを使用することができます。その他の媒体を他のコンピュータにインスト-ルしたり、使用することはできません。また、これらの媒体をその他のユーザに貸与、賃貸、リース、譲渡することはできません。

2 アップグレード

「ソフトウェア」がアップグレードである場合、「ソフトウェア」を使用するには、Sitraka によりアップグレード対象製品と指定されている製品のライセンスを正規に取得している必要があります。アップグレードである「ソフトウェア」は、そのアップグレードの対象となる製品の代替、あるいはこれに追加されるものです。お客様は、アップグレードにより得られた製品を、本契約書の条項に従う場合にのみ使用することができます。

3 著作権の制限

「ソフトウェア」(「ソフトウェア」製品に組み込まれたイメージ、写真、アニメーション、ビデオ、音声、音楽、テキスト、アプレットなどを含みますが、それだけに限りません)、付属のマニュアルなどの印刷物、「ソフトウェア」の複製についての権原、著作権は、Sitraka またはその供給者が有するものです。「ソフトウェア」には、Sun Microsystems, Inc 所有の財産が含まれる場合があります。その場合、Java™ Technology に対する全ての権原、無体財産権は、Sun Microsystems, Inc が所有、使用許諾するもので、その版権を所有しています。
「ソフトウェア」は、著作権法、知的所有権法及び、国際条約の規定で保護されています。従って、「ソフトウェア」は、それが提供されたオリジナルの媒体をバックアップまたは保存の目的にのみ保管することを条件に、本契約書で指定された台数のコンピュータにインストールすることはできますが、それ以外は、著作権で保護されているほかの製品と同様に取り扱ってください。また、「ソフトウェア」に付属するマニュアルをコピーすることはできません。

4 契約の期間と終了

本契約書は、満了するまで有効です。お客様が本契約書の条件と条項に違反された場合、Sitraka は、そのほかの権利を毀損せずに、この契約書を終了させることがあります。その場合、お客様は、「ソフトウェア」のコピー及び構成部分の全てを破棄しなければなりません。また、お客様は、「ソフトウェア」のコピー及び構成部分の全てを破棄することにより、いつでも本契約を終了させることができます。

5 限定保証

(a) インストールと使用

お客様は自らの責任において、お客様の特定目的に適合するとして「ソフトウェア」を選択し、「ソフトウェア」のインストール、使用及び「ソフトウェア」から得られる結果については、その全責任を負うこととします。

(b) 媒体

Sitraka は、「ソフトウェア」が収録された媒体に対しては、お客様が本契約書の条項に同意された日より 30 日間は、通常の使用のもとにおいて、その材質及び収録の技術に欠陥がないことを保証します。Sitraka は、この限定保証を満たさない媒体に対しては交換に応じます。もし、Sitraka が、妥当な媒体の交換を行わない場合、Sitraka の正規代理店に「ソフトウェア」を返却することにより、そのライセンスを終了することができます。この限定保証は、お客様に対して特定の法的権利を与えるものですが、管轄区域の法律によっては、そのほかの権利が与えられる場合もあります。

(c) パフォーマンスの無保証

「ソフトウェア」の品質及びパフォーマンスに関連する全ての損害は、お客様がその責任を負うこととします。「ソフトウェア」は、明示たると黙示たるを問わず、いかなる保証及びそれに代わる表示は一切なしに、Stiraka により、現状そのままが提供されるものです。法律上許容される最大限において、Sitraka は、(A)商品性、特定目的適合性、権原及び権利侵害の不存在、サポート・サービスの提供もしくは提供不能、に関する黙示的な保証の存在、(B)「ソフトウェア」にエラーが存在すればそれを修正すること、(C)「ソフトウェア」が中断することなく、またはエラーなしで実行すること、は一切否認いたします。ただし、黙示保証の除外を容認していない管轄区域では、この限りではありません。

(d) 危険性の高い分野での責任の拒否

「ソフトウェア」は、航空機の管制、誘導、通信等のオンライン・コントロール、核燃料設備の設計、建設、操作、管理など(ただし、これらに限定されない)の危険性の高い分野での使用を前提として設計されていません。Sitraka とその供給者は、そのような目的またはそのほかの目的に対する商品性を明示たると黙示たるを問わず、一切保証いたしません。

6 責任の制限

法律上許容される最大限において、Sitraka、その供給者、正規代理店は、「ソフトウェア」の使用または使用不能、サポート・サービスの提供もしくは提供不能から生ずる、特定的、偶発的、直接的、間接的、懲罰的または必然的な損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失または金銭的損害を含むがこれらに限定されない)、収入や利益、データの損失に関して、一切責任を負わないものとします。例え、Sitraka がかかる損害の可能性について知らされていた場合も同様です。いかなる場合においても、本契約の条項において Sitraka が負う全責任は、「ソフトウェア」においてお客様が支払われた金額を上限とします。ただし、Sitraka のサポート・サービスを契約している場合、そのサポート・サービスにおける Sitraka の全責任は、その契約書の条項に従います。管轄区域によっては、損害に対する責任の除外や制限を認めていない場合があり、その場合、前述の制限や除外は適用されないことがあります。

7 税金と関税

「ソフトウェア」のライセンス価格には、売上、使用、付加価値、消費、サービスにかかる税金や、輸入関税をはじめ、この製品またはライセンスに対するいかなる税金や料金も含まれていませんので、かかる税金（が生じる場合）は、お客様に支払い義務があります。ただし、Sitraka の純益にかかる税金は、お客様にはその義務はありません。

8 U.S. Government Restricted Rights

「ソフトウェア」とその関連資料は、RESTRICTED RIGHTS に基づいて提供されています。米国政府による使用、複写、開示は、DFARS の 252.227-7013(c)(1) 及び FAR の 52.227-19(c)(2)、これらが改定された場合はその該当する、条項に従います。製造者: Sitraka Inc., 260 King Street East, Toronto, Ontario, Canada, M5A 4L5.

9 輸出規制

お客様は、直接的もしくは間接的に、「ソフトウェア」、関連資料や技術データ、「ソフトウェア」の直接的な製品であるサービスを U.S.、カナダまたは州の規則や法令で制限されている諸国には、Bureau of Export Administration of the U.S. Department of Commerce(または、かかる輸出や譲渡を規制する政府機関)の書面による事前同意なしには、輸出、譲渡しないことに同意するものとします。

10 パブリック・ドメイン・ソフトウェア

本契約書及び、本契約書に記載されている保証、法的救済、制限、条件は、パブリック・ドメインと明記されているソフトウェアには適用されません。

11 その他

(a) 適用法令。本製品をアメリカ合衆国内で取得した場合、本契約書はニューヨーク州の法律に準拠し、契約当事者双方は、いかなる争議も例外なくニューヨーク市の法廷で解決することに同意するものとする。本製品を合衆国の外で取得した場合、本契約書は、カナダ及びオンタリオ州の法律に準拠し、契約当事者双方は、いかなる争議も例外なくトロントの法廷で解決することに同意するものとする

(b) 通知。本契約書に関して疑問がある場合または Sitraka になんらかの理由で連絡を取りたい場合は、お客様の居住する国の Sitraka 代理店に連絡をとるか、または直接、Sitraka に手紙を書いてください。Sitraka Inc., 260 King Street East, Toronto, Ontario, Canada, M5A 4L5.

(c) 可分性。もし、本契約書の一部条項が無効または遵守不可能であったとしても、本契約書全体の有効性に影響するものではなく、本契約書は、そこに記述される条項において有効であり、それには従わなければなりません。また、もし、提供された改善手段がその本来の目的にかなっていない場合でも、本契約書の限定保証で定義された損害の除外と責任の制限は、全く効力を失うものではなく有効であるとします。

(d) **補足製品。**Sitraka **の製品は、**(Microsoft Windows **等の)他のソフトウェア製品と組み合わせて実行したり、**(Adobe Acrobat **等の)他のソフトウェアに基づくフォーマットでの出力を生成することができます。これらのソフトウェア製品の使用に必要なライセンスを取得されているかどうかは、お客様ご自身が責任を持ってご確認ください。**

(e) **譲渡。**Sitraka **による書面の事前同意書なしに、本契約書の全体または一部を譲渡することはできません。本契約書は、お客様と** Sitraka **及び、双方の後継者と許可された被譲渡人の利益及び法的拘束に効力を持つものです。**

(f) **不可抗力。一般的に妥当とされる責任範囲を超えた原因によって、しかもそこになんらの怠慢や恣意的な悪行はないと認められた場合、本契約書に定められた義務を履行することが極めて困難な状況が継続する限り、本契約書の当事者は、それらの義務から免除されます。**

(g) **総括。本契約書は双方の完全なる同意事項を総括するものであって、ここに定められた事項に関してそれ以前にかわされた書面または口頭による合意事項より優先されます。注文書や提案書等お客様によって作成された書面やそのほかの形式によって提示された条件や条項は、**Sitraka **が書面によってそれらに明確に同意したり、本契約書に記述したりした場合を除いては、本契約書とは一切関係なく、当事者はそれらに拘束されるものではありません。**

本契約書は、Sitraka **より提供される**"License Agreement - Standard Terms And Conditions"**を(株)タンジェント・コンピューティングが日本語訳したものです。表現等に不一致がある場合は、原文**(http://www.sitraka.com/software/xrt/licensing)**に従います。**

XRT End-User License Agreement(XRT 使用許諾契約書)

本契約書は、Sitraka Inc.からお客様に使用が許諾された XRT ソフトウェアの使用に関する End-User License Agreement(以下、EULA といいます)です。EULA は、（本リリース・ノートに掲載されている）License Agreement Standard Terms And Conditions(以下、T&C's といいます)と合わせて、お客様と Sitraka の間で締結される契約全体を構成し、それ以前に両者でなされた、口頭、書面またはその他の手段によるいかなる合意事項に代わるものです。

A Binary Code License

XRT ソフトウェア(以下、「ソフトウェア」といいます)をバイナリ・コードの形態で購入された場合、EULA は、T&C's に記載されている条項を前提として、下記の権利をお客様に許諾します。

(1) 開発

お客様が御登録された CPU と一致する一台のコンピュータにおいて、「ソフトウェア」のバイナリ・コードのみを使用できる、非独占的、譲渡不能なライセンスです。ネットワーク・ライセンスを御購入された場合は、御指定の CPU と一致するコンピュータとローカル・エリア・ネットワークで接続された、同機種及び同ビル内に設置されているコンピュータにおいて、御購入いただいたライセンスで許可される使用台数を上限として「ソフトウェア」を御使用いただくことができます。また、共有ライブラリを御購入された場合、「ソフトウェア」のユーザ数は、御購入されたライセンスで許可された数を超えることはできません。「ソフトウェア」は、テンポラリ・メモリ(RAM 等)にロードされた時、パーマネント・メモリ(ハード・ディスク、CD-ROM、その他の記憶装置等)にインストールされた時、エンドユーザ・アプリケーションにリンクされた時、開発ツール(コンパイラ、リンカ、GUI ビルダ等)によってアクセスされた時に「使用」されたとします。他のコンピュータへ「ソフトウェア」のファイルを配布する目的のみで、ネットワークのファイル・サーバにインストールされている場合は、「使用」されているとはみなされません。

(2) 配布

T&C's に記載される条項に基づき、「ソフトウェア」の"lib"または"lib-shared"ディレクトリにある、バイナリ・コードのアプリケーション・ファイルにリンク可能な形態のファイル(以下、「XRT ライブラリ・ファイル」という)は、次の条件に従う場合にのみ、ロイヤリティなしで複製、配布することができます。(a)再リンクが不可能な方法でお客様のソフトウェア製品にリンクされて「XRT ライブラリ・ファイル」が配布される、(b)配布されるお客様のソフトウェア製品は、「ソフトウェア」と同等または類似した機能を持つ開発ツールではない。

B Source Code Lincense

「ソフトウェア」をソース・コードの形態で購入された場合、EULA は、T&C's に記載されている条項を前提として、下記の権利をお客様に許諾します。

(1) 使用

お客様が御登録された CPU と一致する一台のコンピュータにおいて、「ソフトウェア」のソース・コードのみを使用できる(そこからバイナリ・コードを派生させる権利を含む)、非独占的、譲渡不能なライセンスです。お客様は、T&C's に記載されている条項を遵守されるとともに、このソース・コードの機密性を保持しなければならず、ソース・コードまたはバイナリ・コードを使用するマシンに対して追加のライセンスをご購入された場合以外は、これを複写または配布することはできません。ソース・コードは、非常に機密性が高い、Sitraka Inc.の所有物です。ソース・コードは、それを知る必要があり、且つ、その機密性保持の責任を持つことができる、お客様の組織内部者に対してのみ、使用許可または開示をすることができます。

(2) 配布

T&C's に記載される条項に基づき、「ソフトウェア」の"lib"または"lib-shared"ディレクトリにある、バイナリ・コードのアプリケーション・ファイルにリンク可能な形態のファイル(以下、「XRT ライブラリ・ファイル」という)は、次の条件に従う場合にのみ、ロイヤリティなしで複製、配布することができます。(a)お客様のソフトウェア製品の不可欠な部分として「XRT ライブラリ・ファイル」を配布する、(b)配布されるお客様のソフトウェア製品は、エンド・ユーザ向けのアプリケーションで、「ソフトウェア」と同等または類似した機能を持つ開発ツールではない。

C サポート

「ソフトウェア」に対する保守とサポート(以下、「サポート」といいます)は、現時の価格で一年間分、Sitraka より、前払いを前提として購入することができます。ソース・コードのライセンスをご購入された場合は、そのライセンスに対して全て「サポート」を購入される必要があります。「サポート」サービスでは、アメリカ合衆国の休日を除く月曜日から金曜日、東部標準時間の午前 9 時から午後 8 時までの時間帯に、電話、ファックス、email によってお客様のお問い合わせに応答いたします。「サポート」の内容は、報告されたバグの記録、バグがエラーによるものか、「ソフトウェア」の欠陥によるものかの切り分け、バグの回避法と（必要であれば）バグ修正のリリース、に限られます。「サポート」は、「ソフトウェア」のソースコードからお客様が派生させたバイナリ・コード、「ソフトウェア」が組み込まれたアプリケーション・ソフトウェアに対しては提供されません。「ソフトウェア」のアップグレードは、お支払いになられた「サポート」料金に含まれます。尚、(株)タンジェント・コンピューティングから「ソフトウェア」をご購入された場合、「サポート」に関しては、(株)タンジェント・コンピューティングまでお問い合わせください。

本契約書は、Sitraka より提供される"XRT End-User License Agreement"を(株)タンジェント・コンピューティングが日本語訳したものです。表現等に不一致がある場合は、原文(http://www.tan.co.jp/xrt/support/downloads/)に従います。

XRT/3d 3.2.0J リリースノート

新しい機能と前のバージョンからの変更点

XRT/3d 3.2.0Jでは、多くの問題が修正されています。修正された問題に関しましては、下記を参照してください。

新しい機能

スキャッター・プロット ― 三つのデータ・ポイント(x, y, z)からスキャッター・プロットを作成する新しいデータ型とグラフのタイプが追加されました。

グリッド線 ― 新しいデータ型、`Xrt3dLineStyle` によってグリッド線の色、幅、スタイル等を定義できるようになりました。デフォルトのグリッド線は、グラフの前景色(指定されていなければウィジェットの前景色)を使用した幅 1 の実線です。

凡例のコントロール ― 凡例ラベルのインターバルを指定したり、タイトルを追加することができるようになりました。

背景のイメージ― ウィジェット、グラフ、ヘッダー、フッター、凡例、テキスト・オブジェクトの背景にイメージを表示できるようになりました。イメージは、中央またはタイル状に配置できます。

PDS ユーティリティ・ライブラリ ― グラフを JPEG、PNG またはユーザが定義したイメージ・フォーマットに出力できるようになりました。`XrtPDSImage` は、イメージを持つオブジェクトです。Pixmap が内部で使用されますが、この新しい方法によって様々なイメージのフォーマットをサポートすることができます。このライブラリは、その他、`XrtPDSList` オブジェクトもサポートしています。これを利用して、複数のアイテムのグループを簡単に記憶させることができます。

オンライン・マニュアル

XRT/3d のマニュアルは、Acrobat PDF フォーマット(*xrt3d.pdf*)として CD に収録されています。オンライン・マニュアルはアップデートされますので、ハードコピーのマニュアルと実際の API が異なる場合は、オンライン・マニュアルを参照してください。

XRT/3d 3.0.0 から修正された問題

1 #23027242 `XtNxrt3dPerspectiveDepth`を`XRT3D_HUGE_VAL`にセットすると、軸の注釈が消えてしまっていました。

2 #23006641 スキャッター・プロットでは凡例上のピックができませんでした。

3 #23007466 ウィジェットが期限付きライセンスで許可が与えられている場合、使用不可を示すメッセージがプリントされていました。

4 #23007496 ポイント・データでDataLabelsを使用するとウィジェットがクラッシュしました。

5 #23007531 HP-UXでは、CodeCenterからXRT/3dを実行することができませんでした。

6 #23007979 等高線とゾーンのグラフでは凡例が正しく表示されませんでした。

7 #23008550 イメージとテキストを持つヘッダーとフッターはPostScriptに正しく出力されず、XErrorが起きることがありました。

8 #23009815 凡例のタイトルの計算には枠線幅が含まれませんでした。

問題

フォントについて

XRT/3d は軸のタイトルやラベルに stroke font を使用しており、ダブルバイトのフォントはサポートされておりません。軸には、ASCII 文字セットを使用してください。CGM 出力も、テキストに stroke font を使用していますので、CGM フォーマットに変換されたグラフには日本語が表示されません。

ライブラリの問題

1 #930322 `XtNxrt3dDrawShaded`で3Dサーフェスを描画した場合、グリッド線上でpixelが1、2個分描かれません。これらのpixelは`XtNxrt3dDrawMesh`が`True`の時も不明瞭になります。

2 #930323 *Xrt3dDrawPS()*で行われたPostScript出力では、(等高線を除く)全ての線は指定した幅が0でも、デバイスが最小の線幅を使用し線が表示されます。高解像度のプリンタ(1200dpiのLinotronic imagesetter等)では線があまりにも細いので灰色に見えることがあります。これは全ての`"0 setlinewidth"`を
`"1 setlinewidth"`に変更すると修正できます。

3 #22101665 ヘッダー/フッターに使用されるイタリック・フォントは、印刷時に枠線に重なってしまいます。

4 #22101668 XtNxrt3dSolidSurfaceがTrueのサーフェスにテキスト・オブジェクトを貼り付けると、側面の部分に描画されます。

XRT/field 2.2.0J リリースノート

新しい機能と前のバージョンからの変更点

XRT/field 2.2.0Jでは、多くの問題が修正されています。既存のコードに影響を与えるような変更事項はありませんので、アプリケーションと新しいライブラリを再リンクするだけで、このバージョンを御使用いただくことができます。尚、修正された問題に関しましては、下記を参照してください。

新しい機能

- 新しいウィジェット、XrtCalendar が追加されました。このウィジェットはそのまま、または、XrtDateField の日付ポップアップとしても使用できます。
- XrtSpinBox の日付/時間のスピンでは、サブ・フィールドもスピンすることができるようになりました。
- 自動マッチング機能が追加され、データの一部だけを入力してフィールドにそのデータを表示できるようになりました。
- XrtComboBox では、comboboxの作成時にドロップ・ダウン・リストも同時に作成できるようになりました。
- ドラッグ&ドロップ及び、クリップボードからマスク付きフィールドにペーストを行う新しいアクション、Paste が追加されました。

オンライン・マニュアル

XRT/fieldマニュアルは、Acrobat PDFフォーマット(xrtfield.pdf)としてCDに収録されています。オンライン・マニュアルはアップデートされますので、ハードコピーのマニュアルと実際のAPIが異なる場合は、オンライン・マニュアルを参照してください。

XRT/field 2.0.0J から修正された問題

1 #420224410 XmNxrtFldInternalValueLong をセットするとメモリ・リークがありました。

2 #420222954 *XrtFldCvtStringToTime()*は、返された Struct tm の is_dst フィールドを正しくフィルしませんでした。

3 #420215276 XrtComboBoxの矢印ボタンは、作成時に正しく配置されていませんでした。

4 #420214836 XRTComboBox、XrtGearComboBox、XrtSpinBoxes は、XRT/table 内で作成されると、正しいサイズで表示されませんでした。

5 #420211100 日本語の曜日がサポートされるようになりました。

6 #42007410 XrtSpinBox では、31日ある月の最後でサブ・フィールドをスピンすると、警告メッセージがプリントされました。support@tan.co.jp まで、修正された *XrtDate.h* についてお問い合わせください。

7 #42007467 ウィジェットが期限付きライセンスで許可が与えられている場合、使用不可を示すメッセージがプリントされました。

8 #42007534 HP-UXでは、CodeCenterから XRT/field を実行することができませんでした。

9 #42007771 XmNxrtOverStrike の設定ではカーソルが配置できませんでした。

10 #42007888 SpinBoxの Int Field では、一文字が追加されても、exit でこの編集が確定されませんでした。

11 #42007939 *XrtFldCvtStringToDate()*は、入力がない date フィールドに現在の日を使用しており、その結果が無効な場合、値は変換されませんでした。(例: 1996年 2月 29日に“YYYY”へ”1993”を入力しようとすると、1993年 2月 29日という日が存在しないため、エラーが起きます。)

12 #42008026 *XrtField.h* の XmNxrtFldCalendar マクロには正しくない定義がありました。XrtFldCalendar を XrtFldCalendarCallback に置き換えるか、または support@tan.co.jp まで、修正された *XrtField.h* についてお問い合わせください。

13 #42008640 currency と float フィールドでは *max* と *min* の値を設定できませんでした。

14 #42008749 Alpha OSF では、integer フィールドには *min* 値を入力できませんでした。

15 #42008855 Datespin は、その月の最後の日まで前方向にスピンされると、そのまま止まってしまいました。

16 #42008870 *XtVaSetValues()*では、ダイナミックに picklist を設定及び変更できませんでした。

17 #42008931 float フィールドは null 値を正しく表示しませんでした。
18 #42009741 XmNxrtFldOverstrike は、検証コールバックで cbs->value に影響がありました。
19 #42009951 *CreateWidget()*内での、unsigned long と unsigned integer を使用した範囲設定には問題がありました。
20 #420010832 HP-UX では、”(???)-???-???”のマスクは文字化けしていました。
21 #420010848 Solaris 2.6 では、StringField でペーストを実行するとクラッシュしました。
22 #420010872 表示フォーマットが指定された IntField は、null 値を正しく表示しませんでした。
23 #420011100 Calendar ウィジェットでは、曜日に日本語が使用できませんでした。
24 #420011253 AIX 4.3.2 で共有ライブラリを使用すると、XrtStringField は作成時にクラッシュしました。(support@tan.co.jp まで、AIX 4.3.2 対応の共有ライブラリについてお問い合わせください。)
25 #420011256 Calendar ウィジェットは、ボタンが押された時に非表示になっていました。
26 Solaris 7 では、XmText のマイナーなバグが修正されました。
27 リソース・ファイルで XmNxrtFldMenuAlignment をセットすると、足りないコンバータに関するメッセージが表示されました。
28 多くの足りないコンバータに関する警告メッセージが表示されていました。

問題

ライブラリの問題

1 #422019258 Motif 2.1では、フォーカスが新しいウィジェットに移っても、カーソルが非アクティブになりません。このバグ修正は、Motif 2.1にしかリンクできないライブラリ にのみ用意されています。ご必要な場合は、support@tan.co.jp までお問い合わせください。
2 #422015582 Motif 2.1では、XRT/field に対するドラッグ&ドロップ及びペーストに不具合があります。このバグ修正は、Motif 2.1にしかリンクできないライブラリ にのみ用意されています。ご必要な場合は、support@tan.co.jp までお問い合わせください。
3 #420212099 XrtCalendarでは、ButtonPressとButtonReleaseのイベント間のマウスの動きが正しく追跡できません。

XRT/gauge 1.2.0J リリースノート

オンライン・マニュアル

XRT/gauge マニュアルは、Acrobat PDF フォーマット(xrtgauge.pdf)として CD に掲載されています。

新しい API

XrtGaGetImage()

XRT/gauge ウィジェットの XImage のポインタを返します。この機能は、ウィジェットの XImage にアクセスする必要がある Xlib レベルのプログラミングに便利です。

```
XImage *
XrtGaGetImage(gauge)
       Widget gauge;
```

gauge は出力される XRT/gauge のハンドル。*XrtGaGetImage()*は、失敗時には NULL を返します。ウィジェットが画面上で部分的に隠れていても、XImage は完成します。

XrtGaOutputXwd()

XRT/gauge のイメージを X Window Dump に出力します。

```
int
XrtGaOutputXwd(gauge, *fp, *msg)
       Widget gauge;
       FILE *fp;
       char *msg;
```

gauge は出力される XRT/gauge のハンドル。*fp* は既に開かれ、書き込み可能なファイルを指すようにしてください。*XrtGaOutputXwd()*が問題に遭遇すると、*msg*(最低 100byte)にメッセージを返します。*msg* が NULL の場合、エラーは *stderr* に書かれます。*XrtGaOutputXwd()*は、失敗時には 0、成功時には 1 を返します。ウィジェットが画面上で部分的に隠れていても、xwd は完成します。

XrtGaSaveImageAsJpeg()
XRT/gauge のイメージを JPEG に出力します。あらかじめ *XrtGaEnableImageType()* を使用して JPEG のイメージ型を登録してください。

```
Boolean
XrtGaSaveImageAsJpeg(gauge, filename, msg)
       Widget gauge;
       String filename;
       String msg;
```

gauge は出力される XRT/gauge のハンドル。*filename* はイメージが出力されるファイルの名前です。*XrtGaSaveImageAsJpeg()* が問題に遭遇すると、*msg*(最低 100byte)にメッセージを返します。*msg* が NULL の場合、エラーは *stderr* に書かれます。*XrtGaSaveImageAsJpeg()* は、成功時には True を返します。

XrtGaSaveImageAsPng()
XRT/gauge のイメージを PNG に出力します。あらかじめ *XrtGaEnableImageType()* を使用して PNG のイメージ型を登録してください。

```
Boolean
XrtGaSaveImageAsPng(gauge, filename, msg)
       Widget gauge;
       String filename;
       String msg;
```

gauge は出力される XRT/gauge のハンドル。*filename* はイメージが出力されるファイルの名前です。*XrtGaSaveImageAsPng()* が問題に遭遇すると、*msg*(最低 100byte)にメッセージを返します。*msg* が NULL の場合、エラーは *stderr* に書かれます。*XrtGaSaveImageAsPng()* は、成功時には True を返します。

XrtGaSaveImageGeneric()
XRT/gauge のイメージを元のイメージ型を使用して出力します。使用するイメージ型が登録済みでない場合は、*XrtGaEnableImageType()* を使用してそのイメージ型を登録してください。

```
Boolean
XrtGaSaveImageGeneric(gauge, image_type, msg)
       Widget gauge;
       int image_type;
       String filename;
       String msg;
```

gauge は出力される XRT/gauge のハンドル、*image_type* はイメージ型です。*filename* はイメージが出力されるファイルの名前です。*XrtGaSaveImageGeneric()* が問題に遭遇すると、*msg*(最低 100byte)にメッセージを返します。*msg* が NULL の場合、エラーは *stderr* に書かれます。*XrtGaSaveImageGeneric()* は、成功時には True を返します。

XRT/gauge の最初のバージョンから修正された問題

1 #611011477 XrtGaLinearDial の XmNxrtGaDrawFunc は何もしないリソースのため、削除されました。
2 #611011478 ライセンスがないと、XrtGaLEDNumerical はコアダンプしました。
3 #611011479 アプリケーションでは、全てのウィジェットでライセンス無効または期限付きライセンスに関するメッセージがプリントされていました。
4 #611011515 *XrtGaSaveImageGeneric()*、*XrtGaSaveImageAsJpeg()*、*XrtGaSaveImageAsPng()*、*XrtGaGetImage()*、*XrtGaOutputXwd()* の API がありませんでした。

問題

このリリースノートのプリント時においては、問題は報告されておりません。

XRT/gear 3.2.0J リリースノート

新しい機能と前のバージョンからの変更点

XRT/gear 3.2.0J では、多くの問題が修正されています。既存のコードに影響を与えるような変更事項はありませんので、アプリケーションと新しいライブラリを再リンクするだけで、このバージョンを御使用いただくことができます。尚、修正された問題に関しましては、下記を参照してください。

新しい機能

- Outlinerのノード・ラベルが編集できるようになりました。
- ColorEditorが追加され、複雑なコーディングをせずに簡単にユーザにカラー・エディタを提供できるようになりました。
- PanedWindowウィジェットが追加され、ウィジェットを縦または横方向に簡単に配置することができるようになりました。

オンライン・マニュアル

XRT/gearマニュアルは、Acrobat PDF フォーマット(xrtgear.pdf)として CDに収録されています。オンライン・マニュアルはアップデートされますので、ハードコピーのマニュアルと実際の APIが異なる場合は、オンライン・マニュアルを参照してください。

XRT/gear 3.0.0J から修正された問題

1 #530220434 Outliner: ショートカット・ボタンは正しくイニシャライズされませんでした。

2 #530220404 Outliner: 複数の選択の決まり(selection policy)を使用している際に、ショートカット・ボタンを使用すると選択されているノードが非選択状態になってしまいました。

3 #530214981 WidgetTip: `XrtGearTips`はセグメンテーション・フォールトを起こしていました。

4 #530214885 Outliner: スクロールバーは正しくリサイズされませんでした。この動作をコントロールするために新しいリソースが追加されました。

XmNxrtGearDynamicColumnSize Boolean False CSG

列のサイズの計算法を指定します。このリソースが`True`の場合は、現在開いているノードが占めるスペースから、`False`の場合は、全てのノードが展開された場合に必要なスペースから計算されます。デフォルトでは、後者の列の最大幅に設定されています。

5 #530214880 WidgetTip: *XrtGearTipsDisplayHelp()*は、最初の呼び出しだけにしか使用できませんでした。

6 #530214716 Outliner: 列ラベルが表示されているときは、表示されるノードのリストは二つ分ずれていました。

7 #530214580 Outliner: ノードが削除されると、クラッシュする場合がありました。

8 #530214377 Outliner: 横方向のスクロールバーの値が、存在しないのに修正されようとすることがありました。

9 #53004588 Outliner: 画面の外にウィジェットがドラッグされると再描画が正しく行われませんでした。

10 #53007365 Outliner: 複数行の列ラベルが`XRTGEAR_TRUNCATE_ELLIPSES`によって途中で切れているときは、正しく描画されませんでした。

11 #53007398 ComboBox: Colorが入力されても色名がアップデートされませんでした。

12 #53007408 Outliner: 編集モードでは、編集されているノードに割り当てられているアイコンでMB1をクリックしても、編集が確定されませんでした。

13 #53007470 Outliner: PostScriptのプリント・ルーチンは、C以外のロケールでプリントされた時にロケールを"C"にセットしませんでした。これにより、正しくないPostScriptコードが生成されていました。

14 #53007484 *xrtgear_XmStringExtent()*にはFUMエラーがありました。この問題にはパッチがありますので、support@tan.co.jpまでお問い合わせください。

15 #53007533 HP-UXでは、CodeCenter内で使用されているXRT/gearを調べる機能が正しく実行できませんでした。

16 #53007712 Outliner: 再描画が正しく行われず、データがあるのにブランクが表示されていました。

17 #53007889 Widget Tip: 行が増加すると、マージンも増加していました。

18 #53008456 Widget Tip: 同一のアプリケーション内では、同時に複数のシェル・ウィジェットに使用することができませんでした。

19 #53008488 Outliner: XrtGearNodeGetPreviousInTreeは、予期しない値を返していました。

20 #53008493 Outliner: *GpTo()*アクションのNextParentとParentNodeの引き数は、正しく実行されませんでした。

21 #53008914 Outliner: ソートされた後の再描画は正しく行われませんでした。

22 #53008955 Outliner: 表示されるノードをセットしても、スクロールバーは正しくアップデートされませんでした。

23 #53008992 Outliner: ノードによってはactivateアクションが呼び出されませんでした。

24 #53009187 Outliner: ツリーの一番最初のフォルダにノードをドラッグすることができませんでした。

25 #53009522 Outliner: XmNxrtGearTreeDataをnullにしても既存のノードを全て破棄しませんでした。

26 #53009694 XrtGearStringはフォントの設定を正しく処理しませんでした。

27 #53009744 Outliner: 選択されたノードの再描画が正しく行われませんでした。

28 #53009879 Progress: 長いラベルを使用するとアップデートが行われませんでした。

29 #530010479 Tabbed Dialog: XmNlabelStringが変更されても、再描画が強制されるまでTabボタンのラベルがアップデートされませんでした。

30 #530010555 Outliner: FMRはクラッシュの原因になっていました。

31 #530010593 Progress: ウィジェットがrealizeされる前にXmNbackgroundをセットするとクラッシュしました。

32 #530010598 Toggle: ウィジェットが作成された後、realizeされる前にpixmapとストリングをセットするとクラッシュしました。

33 #530010877 Outlinerをプリントした後には、XPMファイルがクラッシュすることがありました。

34 #530010931 Tabbed Dialog: Motif 2.1では、リソース・ファイルで複数行のラベルを定義するとコアダンプが起きました。

35 #530011123 Outliner: フォーカスが正しく行われませんでした。

36 #530011082 Combo Box: picklistがnullの時にコアダンプが起きないようにし、警告メッセージを出力するようにしました。

37 #530011208 XrtGearTipsDisplayHelpは、NULLが渡される場合、XmNxrtGearText値を使用するべきでした。

38 #530011763 Outliner: timeoutのバグが、Outliner以外で作成されたtimeoutも削除していました。

39 #530011957 Outliner: 初期化されないメモリの読み込みがありました。

40 #530012882 Outliner: ノードが繰り返して追加、削除された後、選択すると、表示されるノードのリストが実際の表示と異なることがありました。

41 Solaris 7では、XmTextのマイナーなバグが修正されました。

問題

ライブラリの問題

1 #51000048 *XrtGearSnapGetWidgetPixmap()*が、(*XShapeGetRectangles()*を呼び出して)形のclippingを行うと、Xサーバによっては落ちることがあります。御使用のXサーバにこの問題がある時は、この方法を呼び出す前に、XmNxrtGearSnapNoShapeClipリソースをウィジェットにセットしてください。次の行をリソース・ファイルまたはfallbackリソース・リストに追加することにより、この問題を防ぐことができます。

```
*.xrtGearSnapNoShapeClip: True
```

2 #51000126 Tab Buttonウィジェットでは、XmNxrtGearStyleがXRTGEAR_STYLE_ROUNDEDにセットされている時に、XmNxrtGearCornerSizeがボタンの幅または高さより大きくセットされると、影を表す弧の一部が表示されません。回避法として、XmNxrtGearCornerSizeの値を小さくしてください。

3 #53007370 ToggleButton: HP-UXの最新のパッチがあてられている場合、インジケータの種類を"_NONE"に変更するとゴースト・イメージが表示されます。

4 #53009438 Tab Managerは、XRT/tableウィジェットではcontraintsを正しくセットしません。

5 #530011182 Outliner: 複数のノードを移動すると、ドロップ時にノードの順序が逆になります。

6 多くの機種では、*$XRTHOME/src/gear/examples*ディレクトリのmakefileが、*simple_cpp*、*simple_uil*、*complex_cpp*と/または*complex_uil*プログラムをビルドできません。

7 Enhanced PushButtonは、メニュー・アイテムとして使用できません

XRT/graph 4.2.0J リリースノート

新しい機能と前のバージョンからの変更点

XRT/graph 4.2.0Jでは、多くの問題が修正されています。既存のアプリケーションでXRT/graph 4.2.0Jを使用する場合は、再コンパイルして新しいバージョンのライブラリが使用されるようにしてください。尚、修正された問題に関しましては、下記を参照してください。

PDS ユーティリティ・ライブラリ

グラフを JPEG、PNG またはユーザが定義したイメージ・フォーマットに出力できるようになりました。`XrtPDSImage` は、イメージを持つオブジェクトです。Pixmap が内部で使用されますが、この新しい方法によって様々なイメージのフォーマットをサポートすることができます。このライブラリは、その他、`XrtPDSList` オブジェクトもサポートしています。これを利用して、複数のアイテムのグループを簡単に記憶させることができます。

オンライン・マニュアル

XRT/graph マニュアルは、Acrobat PDF フォーマット(xrtgraph.pdf)として CD に収録されています。オンライン・マニュアルはアップデートされますので、ハードコピーのマニュアルと実際の API が異なる場合は、オンライン・マニュアルを参照してください。

XRT/graph 4.0.0J から修正された問題

1 #140225260 テキスト領域の接続線は、この領域に使用されている前景色で表示されませんでした。
2 #140220930 *XrtDrawPS()*は、テキスト領域の出力時に、フォント・サイズをゼロとしていました。
3 #140217596 1000 ポイントがグラフ化された後、ポイント・スタイルの色は正しく表示されませんでした。
4 #140217214 *XrtSaveGraphToFile()*は、二回呼び出されるとクラッシュしていました。
5 #14007464 期限付きのライセンスで許可が与えられているウィジェットでは、余計なメッセージがプリントされます。これは無視してください
6 #14007526 HP-UX では、CodeCenter 内から XRT/graph を実行することができませんでした。
7 #14007690 円グラフでは、全てのポイントが 0 の時は凡例が消えてしまいました。
8 #14008529 イメージとテキストがあるヘッダー、フッター、テキスト領域は、PostScript 出力で正しく実行されず、XError を起こすことがありました。(この問題には、最新の *pdsutil* のパッチをあててください。)
9 #14008582 3 次元の円グラフのポイント・ラベルは、円上に描画されることがありました。
10 #14008666 *XrtGraph.hxx* の `setData` は、Free Memory Read の原因となることがありました。(アップデートされた *XrtGraph.hxx* と *bar2tran_cpp.xcc* については、support@tan.co.jp お問い合わせください。)
11 #14008981 X 軸の *max* より大きい *min* をセットするとクラッシュが起きました。
12 #14008991 生成された PostScript は、一行に対して 255char を超えることがありました。
13 #14009034 Bubble チャートでは、stacking フラグが `True` のときに、Y 座標の unpick が正しく行われませんでした。
14 #14009077 Y2 軸の multiplier と対数 Y 軸は無限 recursion バグの原因となることがありました。
15 #14009685 `XtNxrtYAxisLogaritumic=True` の時、機種によっては、ズームが正しく行われませんでした。
16 #14009695 0 セット、0 ポイントのレーダ・チャートは、クラッシュしました。
17 #14009696 100 文字以上の PointLabel は、円グラフの外にまで表示されていました。
18 #14009697 積み上げ形式では、hole 値も合計に入れていました。
19 #14009698 `ATTACH_PIXEL` を使用したテキスト領域は完全に再描画されないことがありました。
20 #14009890 テキスト領域ではイメージ構造体が正しく初期化されませんでした。
21 #140011258 影付きの枠線を持つヘッダー、フッター、グラフ領域の配置は正しく行われませんでした。
22 #140012021 PostScript 出力では、3 次元の棒グラフのパターンが正しく表示されませんでした。
23 #140012024 背景色とパターンが使用されると、正しくない PostScript が出力されました。
24 #140012061 軸のズームを行うと、ポイント・スタイルが動いてしまいました。

問題

ライブラリの問題

1 #12400221 回転された注釈を持つグラフを表示する場合、Xサーバではpixmapが足りなくなってしまいます。回避法として、長い間実行、アップデートさせるグラフには、回転された注釈を使用しないようにしてください。

2 #13002148 `0.0e+00`というフォーマット・ストリングを軸の注釈に使用する場合、数値の精度が異なる場合があります。(例: `1.20`が`1.2`と表示されたりします。)

3 #14007516 ウィジェットが極端に小さくリサイズされると、3次元の棒グラフが上下逆に表示されます。

4 #14007805 *bar clusterwidth=100*で枠線が表示される場合、棒がグラフの領域の外に表示されます。

5 #14008021 円グラフでは、"その他 " のスライスを非表示にすることができません。

XRT/table 3.2.0J リリースノート

新しい機能と前のバージョンからの変更点

XRT/table 3.2.0Jでは、多くの問題が修正されています。既存のアプリケーションでXRT/table 3.2.0Jを使用する場合は、再コンパイルして新しいバージョンのライブラリが使用されるようにしてください。尚、修正された問題に関しましては、下記を参照してください。

新しい機能

表示に関する改良点

- *XrtTblSetAllCursors()*でテーブルのカーソルがセットでき、これは *XrtTblRestoreAllCursors()*でデフォルトに戻すことができます。
- 新しい constraint リソースが追加され、セル内のウィジェットの配置が改良されました。

プログラミングに関する改良点

- セルのセンシティビティは、current context に基づくようになりました。
- リスト・モードが、`XmList` の機能や動作により一層近くなりました。

編集に関する改良点

- ComboBoxや SpinBoxによって、あらかじめ定義した picklistから選択してセルを編集することができるようになりました。
- *XrtTblRangeListFindRange()*または *XrtTblRangeListFind()*によって、範囲または範囲のリストを行/列の値や他の範囲の値によって検索することができるようになりました。
- スクロールバーの横に小さなウィンドウが表示され、スクロールがリリースされた時にテーブル内のどの部分が表示されるかを確認できるようになりました。

PDS ユーティリティ・ライブラリ

グラフを JPEG、PNG またはユーザが定義したイメージ・フォーマットに出力できるようになりました。`XrtPDSImage` は、イメージを持つオブジェクトです。Pixmap が内部で使用されますが、この新しい方法によって様々なイメージのフォーマットをサポートすることができます。このライブラリは、その他、`XrtPDSList` オブジェクトもサポートしています。これを利用して、複数のアイテムのグループを簡単に記憶させることができます。

オンライン・マニュアル

XRT/tableマニュアルは、Acrobat PDFフォーマット(xrttable.pdf)としてCDに収録されています。オンライン・マニュアルはアップデートされますので、ハードコピーのマニュアルと実際のAPIが異なる場合は、オンライン・マニュアルを参照してください。

XRT/table 3.0.0J から修正された問題

1 #330224300 `Select(Extend)`は、表の最終行がフリーズされているときは、正しく動作しませんでした。

2 #330224031 XRT/table のスクロールバーは、表の一番下にフリーズされている行があるときは、間違った値を得ていました。

3 #330223985 `XmNxrtTblSelectionCallback` は、XmListモードでは、各 pixelで呼ばれていました。

4 #330218598 context が `XRTTBL_ALLCELLS` にセットされているときは、`XmNxrtTblPixel[Width][Height]Context` の `XRTTBL_VARIABLE` の設定は認識されませんでした。

5 #330215908 *XrtTblWriteSylk()*は、`XrtTblCellValueCallback` では使用できませんでした。

6 #330215487 Motif 2.1では、結合されたセルの最初の文字が切れていました。

7 #330215325 XRT/table 内で XRT/table のクローンを作成しようとするとクラッシュしていました。

8 #330214392 `enums` を使用して context 値を削除することはできませんでした。

9 #330211927 XmOptionMenuは、非センシティブにセットされても薄い色で表示されませんでした。

10 #33007372 ListMode: 二つの選択範囲にある行を CTRL クリックしても、最初の選択範囲からの行しか削除しませんでした。
11 #33007460 試用版では、アプリケーションは、余計なメッセージをプリントしました。
12 #33007475 NumFrozenRows を_ALL または_ALLCELLS にセットすることを許可してしまいました。
13 #33007532 HP-UX では、CodeCenter 内で使用されている XRT/table ウィジェットを正しく調べることができませんでした。
14 #33007618 Context が RangeContext の最初のセルにセットされている場合、RangeContext は NULL に正しくセットされませんでした。
15 #33007983 結合されたセルでは、長いテキストを選択することができませんでした。
16 #33008025 CvtStringToXmStringList: 自動変数を静的にするようにしました。
17 #33008208 horizontal overflow がオンの時、セル値が実際に隣のセルに表示されるとコアダンプを起こしていました。
18 #33008404 最後の行が半分だけ表示されているとき、その行のセルのどれかをクリックすると、選択コールバックが間違った行番号を返しました。
19 #33008491 リソースから xrtTblRepeatBackgroundColors をロードした場合、PostScript で印刷すると XError クラッシュが起きることがありました。
20 #33008509 フリーズされた行が一番最後、またはフリーズされた列が一番右側にあるとき、XrtTblEventToRowCol は、フリーズされた行または列に対して間違ったインデックスを返していました。
21 #33008911 トラバース、検証コールバックが登録されると、コアダンプが起きることがありました。
22 #33008937 XRT/field ウィジェットがテーブルで使用されたときのパフォーマンスが良くなるようにしました。
23 #330010035 日付の picklist の逆変換プログラムは、年の最後の二桁しかプリントしませんでした。
24 #330010085 XmNxrtTblWordWrapContext を True にすると、テキストが正しく表示されませんでした。
25 #330010321 列のドラッグ&ドロップはクラッシュを起こすことがありました。
26 #330010360 Digital Unix 4 では、トップレベルのウィジェットが破棄されるとコアダンプが起きていました。
27 #330010361 フォーカスがあるセルに XmNxrtTblDataTypeContext をセットすると、次のトラバーサルでクラッシュが起きることがありました。
28 #330010362 選択の方法に範囲がセットされている場合、ComboBox メニューの外をクリックすると、クラッシュが起きることがありました。
29 #330010481 回転されたラベル・ウィジェットは PostScript では正しく処理されませんでした。
30 #330010486 ひとつのラベル context で値が変更されたとき、テーブルは正しくアップデートされませんでした。
31 #330011202 最後の列が非表示の場合、列ラベルのリサイズは正しく行われませんでした。
32 #330011277 複数行のセルから XmText ウィジェットにドラッグすると、列ラベルがテキスト・ウィジェットに移動しました。
33 #330011278 テキスト・ウィジェットからセルに複数行のテキストをドラッグすると、複数のセルにテキストが分散されて表示されることがありました。
34 #330011652 XmNxrtTblResizeCellCallback は無効な値を返していました。
35 #330011710 XmNxrtTblWordWrapContext と XmNxrtTblMultilineContext はコアダンプの原因となることがありました。
36 #330011865 ペースト時に、テキストの最後尾にガーベッジ文字が付くことがありました。
37 #330011912 選択されているセルを持つ行を削除すると、array bounds read が起きました。
38 #330011933 pixmap と clipmap をセットすると、BadMatch エラーで失敗していました。
39 #330011952 NuTCRACKER のシステムによっては、XrtTableDrawPS はクラッシュすることがありました。
40 #330012012 フリーズされた列が右側にあるとき、再描画に問題がありました。
41 #330012319 最初に表示されるセルでは、テキストがあらかじめ選択されませんでした。
42 #330012528 Solaris 7 では、XmNxrtTblPSFontMapList が正しく行われませんでした。
43 Solaris 7 での XmText のマイナーなバグが修正されました。
44 CellValidate コールバックでは、二回行われるメモリ解放を防ぐようにしました。

問題

ライブラリの問題

1 #3221214 非常に大きいテーブルをソートすると、再描画に問題があります。

2 #32212348 XmNxrtTblDoubleBufferがXRTTBL_DOUBLEBUFFER_WINDOWにセットされている場合、全体が表示されていないテーブルは正しく再描画されません。代わりに、XRTTBL_DOUBLEBUFFER_CELLまたはXRTTBL_DOUBLEBUFFER_NONEを使用してください。

3 #33008335 XmNstringDirectionリソースはセルでは使用できません。

4 #33009535 空白の行または、スペースのみを持つ行がある場合は、画面上や印刷でのテキストの配置が正しく行われない場合があります。

5 #33009946 範囲の検証機能がセットされたフィールドがテーブル内で使用されると余計なエラー・コールバックが生成されます。

6 #330011262 アプリケーション・ウィンドウが非表示になっていたりアイコン化されていても、XRT/tableは、カーソルの追跡コールバックを呼び出します。

7 #330011280 XRTTBL_PS_COLORがXRTTBL_PS_MONOにセットされ、テーブルの行が一行以上選択されている場合は、*XrtTblVaDrawPS()*は正しく印刷を行いません。

8 #330011982 HP-UX11.xでは、ユーザがComboBoxのリスト・アイテムが開いているときに選択するとXRT/tableがクラッシュします。

9 #330013694 StringComboからトラバースされるとセルのテキストは選択状態にはなりません。

10 *XrtTblVaSetValues()*を使用中に、”Warning: XRT/table: *set_values_almost* procedure shouldn’t be NULL.”というメッセージが表示されます。*XrtTblVaSetValues()*の代わりに*XtVaSetValues()*を使用してください。

11 選択された範囲をドラッグ&ドロップする際、ドロップ先に列ラベルを使用すると、ドロップができません。これは、XmNxrtTblTraversableSeriesがFalseになっている場合に、最初の幾つかの列で起こります。これはMotifの問題です。回避法として、テキスト・ウィジェットのpixel幅(XmNwidth)を(1等の)小さい数にセットしてください。テーブルのテキスト・ウィジェットは、XmNxrtTblTextリソースを使用して取得できます。

12 (ウィンドウの移動等によって)テーブルが再描画する際、テーブルは、現在選択されているセルの背景色をフラッシュ(一瞬表示)します。(選択されているセルが、テーブルの他の部分とは異なる背景色を持っている場合に起こります。)これはXで定義されている動作で、Xウィンドウは再描画する際に、選択されている背景色をフラッシュします。回避法はありません。

XRT/pageformatter 2.2.0

新しい機能と前のバージョンからの変更点

XRT/pageformatter 2.2.0では、多くの問題が修正されています。既存のアプリケーションでXRT/pageformatter 2.2.0を使用する場合は、再コンパイルして新しいバージョンのライブラリが使用されるようにしてください。尚、修正された問題に関しましては、下記を参照してください。

オンライン・マニュアル

XRT/pageformatterマニュアルは、Acrobat PDFフォーマット(xrtpf.pdf)としてCDに収録されています。このマニュアルは英語で提供されています。

XRT/pageformatter 2.0.0 から修正された問題

1 #112108511 プレビューでは、印刷ページの順序を正しく処理しませんでした。

2 #112016417 EPS ファイルを PDF ドキュメントに埋め込むと、グレイのボックスがプリントされませんでした。

3 #112016448 プリンタ・オプションは、コアダンプを起こすことがありました。

4 #112017128 ページの方向とサイズの両方のオプションを設定すると、アプリケーションはコアダンプを起こすことがありました。

5 #112017666 KlgPFPrinterSetCollate は、正しく動作しませんでした。

6 #112017684 H Rule を non-flow フレームにプリントすると、間違ったエラー・メッセージが生成されていました。

7 #112017767 webprint デモでは、最初のページしか見ることができませんでした。

8 #112018616 “@@”を使用しているテーブルで “ @”を入れようとすると、“@@”が出力されていました。

9 #112019734 ColorPASS 700-800 Color Serverの Canon PPD ファイル *efxjc2b3.ppd* は、コアダンプをおこしていました。

10 #1120111955 GIF ファイルを読み込むときに Purify はエラーを起こしていました。

11 #1120111561 レターサイズではない大きさのドキュメントを作成するときには、ページのサイズが正しく処理されませんでした。

12 PDF ファイルのダメージにつながる問題を修正しました。

13 non-current フレームにテーブルを入れても、間にも表示されませんでした。

14 qm1700_1.ppd は、アプリケーションをクラッシュさせていました。

問題

ライブラリの問題

1 ＃1120111321 PDF ドキュメントに GIF ファイルをインクルードすると大きなサイズの PDF のファイルが生成されます。

2 ＃1129115953 多くの JPEG を含む PS ファイルを作成すると、MemoryMax以上のメモリを使用します。

3 MetroLinkの Motif 2.0（またはそれ以降）を使用する Linux上では、メッセージ領域が動作しません。

デモ･プログラム実行時の問題

- Template Builderの実行 – アプリケーションのデフォルト･ディレクトリに *XTemplateBuilder.res* を挿入するか、または Template Builderが正しく実行されるように XENVIRONMENT 変数をセットしてください。*XTemplateBuilder.res* は、*$XRTHOME/src/template_builder* にあります。詳細は、マニュアルの“ 11 *Using Template Builder*”を参照してください。

- Webprint の実行 – 引数なしで Webpint デモを実行すると、下記のようなメッセージが *$XRTHOME/demo/pf* にプリントされます。

```
************************************************
* Sitraka's WebPrint XRT/pageformatter Demo *
************************************************
This demo was designed to be run on a web server
using a CGI script to generate and pass a parameters
file. Now running in offline, test mode. Sample output
will be saved to the file ./webprint.pdf in Adobe
Acrobat format. Please see the included file pf_demo.cgi
for an example of a CGI script that uses this demo.
```

このメッセージにある cgi スクリプトは *pfdemo.cgi* のことで、*$KLPRHOME/src/pf/demos/webprint* にあります。

- X11/Motif アプリケーションの構築 – Previewer ウィジェットを使用する X11 または Motif アプリケーションを構築する場合は、XRT/field と XRT/gear ライブラリをリンクする必要があります。これらは、*$XRTHOME/lib* にあり、Previewerはライセンスなしで使用できます。

XRT/pageformatter に関係する機種固有の問題

- x86 – 右側のタブ
  四捨五入の誤差により、カラムの右端に位置するタブの配置に問題が生じることがあります。タブ上のテキストが、カラムの右端に揃うのではなく、その前のテキストまたはタブの位置のすぐ隣に配置されてしまいます。回避法として、カラムの直ぐ右端にタブを置くのではなく、左側に僅かだけ(0.001程度)ずらしてください。

XRT 製品のインストール

概要

XRT製品で作成されたアプリケーションには次の三つの状態があります。

Disabled. 製品を開封した状態のデフォルトです。アプリケーションにライブラリをリンクすることはできますが、ライブラリは数秒間しか使用できません。

Time-limited. この状態にするには、タンジェント・コンピューティングまたは代理店からパスワードを取得してください。パスワードをインストールした後、次のようにしてください。

Static libraries: アプリケーションをライブラリにリンクし、*xrt_auth*でアプリケーションに許可を与える。

Shared libraries:*xrt_auth*でライブラリに許可を与えた後、アプリケーションをライブラリとリンクする。

アプリケーションはパスワードの期限が切れるまで、XRT製品の全ての機能にアクセスできます。

Enabled. XRT製品を購入された場合の状態です。パスワードをインストールした後、次のようにしてください。

Static libraries: アプリケーションに永久的な許可を与える。

Shared libraries: ライブラリに永久的な許可を与える。

これらのアプリケーションはXRT製品の全ての機能にアクセスすることができ、どのマシンでも実行することができます。(shared librariesの場合は、許可が与えられたライブラリが、アプリケーションが実行される環境において必ず使用できるようにしてください。)disabledまたはtime-limitedの状態でコンパイルされたアプリケーションは、パーマネント・パスワードをインストールして再許可を与えることができます。

XRT製品のライセンスには、シングルとネットワーク・ライセンスの二つの形態があります。XRTのシングル・ライセンスは、CPUIDで識別されるCPUでのXRT製品の使用を許可します。(shared librariesの場合は、ライセンスがあるCPUIDにてライブラリに許可を与え、アプリケーションにリンクしてください。)

ネットワーク・ライセンスを購入されますと、ネットワーク上の一つのマシンで*xrtld*(XRT License Daemon)を実行できるパスワードが発行されます。*xrtld*はそのネットワーク上のマシンで*xrt_auth*が使用できるようにします。但し、ライセンスがあるマシンとは異なる建物にあるマシンや、ご購入されたライセンスで許可されているマシンの数を超えてXRTを使用することはできません。XRT製品を使用される際は、マニュアルの最初のページにあるXRT使用許諾契約書をよくお読みください。

XRT製品のインストールには次のステップがあります。

Step 1 製品のインストール
Step 2 *XRTHOME*と*PATH*環境変数のセットアップ
Step 3 パスワードのインストール(Step1でインストールされていない場合)
Step 4 XRT License Daemonの開始(ネットワーク・ライセンスの場合)
Step 5 XRTライブラリにライセンスを与える(shared licenseの場合)
Step 6 PPDファイルのインストール
Step 7 正しいPPDファイルのコンフィギュア
Step 8 Non-Xシステムへのインストール
Step 9 インストールのテスト(オプション)

XRTHOME ディレクトリについて

XRT製品は*XRTHOME*と呼ばれる一つのディレクトリ・ツリーにインストールしてください。

同一の機種対応のXRT製品をインストールする場合は、これらを同じディレクトリにインストールしてください。例えば、SunSPARC対応XRT/graphとSunSPARC対応XRT/tableは、同じディレクトリにインストールします。

XRT製品を複数の機種にインストールする場合は、別々のディレクトリにインストールしてください。例えば、IBM RS/6000対応XRT/graph、Sun SPARC対応XRT/graphの各製品はそれぞれ別のディレクトリにインストールします。

Step 1 製品のインストール

XRT製品は、CDに(独自フォーマットで)コンプレスされたファイルとして提供されています。これらは、インストールするディレクトリ(XRTHOMEディレクトリ)に書き込み許可のあるマシンで、インストールのシェル・スクリプトを実行しインストールします。ご使用のマシンにCD-ROMドライブがない場合、ネ

ットワーク上でリモートにアクセスしてください。

a) ルートにログインし、CDをロードしてください。該当するデバイス名とマウント・コマンドを用いてXRTのCDをISO-9660(High Sierra)ファイル・システムとしてマウントしてください。次の表は各アーキテクチャのデバイス・コンフィギュレーションとマウント・コマンドです。

機種	CDドライブのデバイス名 SCSI Target 4	マウント・コマンド[1]
DECstation, Alpha/OSF	/dev/rz4a	mount -t cdfs -o noversion /dev/rz4a /cdrom
HP 9000 Series 700/800	/dev/dsk/4s0	mount /dev/dsk/4s0 /cdrom -r -t cdfs
IBM RS6000	/dev/cd0	mount -r -v cdrfs /dev/cd0 /cdrom
X86 Linux	depends on installation [2]	mount -t iso9660 –r ro /dev/cdrom /cdrom
Silicon Graphics IRIX	/dev/scsi/sc0d4l0	mount -r -t iso9660 /dev/scsi/sc0d4l0 /cdrom
SPARC Solaris, SVR4 on x86	/dev/dsk/c0t4d0s0	mount -r -F hsfs /dev/dsk/c0t4d0s0 /cdrom

1 CD-ROMドライブを持つマシンが、CD上のファイルにexecute permissionを持つようにCDをマウントしてください。

2 デバイス名は、通常、シンボリックに/dev/cdromにリンクされます。

CD-ROMドライブを持つマシンがXRTHOMEディレクトリに書き込み許可を持たない場合は、*/cdrom*ディレクトリをエクスポートし、該当するマシンでマウントしてください。

b) 次のようにしてインストーラのシェル・スクリプトを実行してください。

```
cd /cdrom
sh install.sh
```

(DECstationでは、"sh5 install.sh"としてください。)
HP-UXでは、*install.sh*ファイル名に";1"と追加される場合がありますが、"\;1"を加えてシェル・スクリプトを実行してください。(例 "sh install.sh\;1") *install.sh*は、システムによっては全て大文字で表示される場合があります。

c) シェル・スクリプトは、XRTのインストーラをステップ毎にメニュー表示します。プロンプトに答えながら、各ステップを進んでください。スクリプトは、必要な情報が得られると、指定したXRTHOMEディレクトリにXRT製品をインストールします。このスクリプトで、パスワードをインストールすることができます。

ほとんどの機種では、(シェル・スクリプトではなく)グラフィカルなインストーラを使用するか聞いてきます。そこでyesと答えた場合は、シェル・スクリプトはGUIインストーラを開始し、スクリプトは終了します。その後は、GUIインストーラの指示に従って製品をインストールしパスワードを入力してください。尚、CD17Jでは、グラフィカル・インストーラは使用できません。

```
UNCOMPRESS = "$DKA200:[000000]AXPVMSCL.EXE"
UNCOMPRESS -A DKA200:[000000]AXPVMS.LIC -O DKA200:[XRT]
```

CDからアンコンプレスされたユーティリティを実行できない場合は、テンポラリ・ディレクトリにコピーし、そこから実行してください。XRT製品のアーカイブでは、直接、抽出プログラムを使用することができます。

d) CDには、オンライン・ドキュメンテーション(Acrobat PDFフォーマット)が収録されています。(これらは、シェル・スクリプトやGUIインストーラによって自動的にインストールされません。)オンライン・ドキュメンテーションは、CDから直接読むこともできますが、下記のようにディレクトリを作成して、そこにコピーすることもできます。

```
mkdir <XRTHOME DIR>/doc
cp -p *.pdf <XRTHOME DIR>/doc
```

e) XRT製品ファイルのインストールが終了したら、"umount /cdrom"でCDをアンマウントしてください。

PDS 2.2.0 へのアップグレード

既にXRT PDSの前のバージョンがインストールされている場合は、その上にPDS 2.2.0をインストールすることができます。既存のコードに影響を与えるような変更事項はありませんが、アプリケーションは新しいライブラリを使用して再コンパイル及び再リンクしてください。

Step 2 XRTHOME とPATH 環境変数のセットアップ

XRT製品を使用するユーザは全てXRTHOME環境変数を定義し、検索パスに*$XRTHOME/bin*を加えてください。XRT製品で作成されたアプリケーションのエンド・ユーザは、XRTHOMEを設定する必要はありま

せん。
例えば、XRT/graphを*/usr/xrt*にインストールする場合、*csh*ユーザは*.cshrc*ファイルに次の2行を加えます。

```
setenv XRTHOME /usr/xrt
set path =($XRTHOME/bin $path)
```

Step 3 パスワードのインストール

パスワードは、いつでもインストール、再インストールすることができます。Step 1でパスワードをインストールされていない場合や、試用版用のテンポラリ・パスワードからパーマネント・パスワードに切り替える場合は、ここの指示に従ってパスワードをインストールしてください。各パスワードは、このインストール・ガイドとは別の用紙で発行されます。

a) *XRTHOME*環境変数が正しくセットされ、*$XRTHOME/bin*が検索パスにあるか確認します。

b) "xrtpasswd"と入力します。パスワードやシリアル番号等の情報にプロンプトされます。

*xrtpasswd*はパスワードの情報を*$XRTHOME/etc/licenses*ファイルに追加します。複数のXRT製品、CPUID、リリースレベルのパスワードは同じファイルに加えることができます。

disabledまたはtime-limitedのXRT製品をインストールした後に、その製品のライセンスを購入された場合には、パーマネント・パスワードが発行されます。*xrtpasswd*コマンドを用いて、このパーマネント・パスワードをインストールし、次のようにしてください。

Static libraries: *xrt_auth*を使用して既存のアプリケーションに許可を再度与える。
Shared libraries: *xrt_auth*を使用してXRTライブラリに許可を再度与える。
このようにして許可が与えられたライブラリを使用するアプリケーションには、再リンクなしで永久にライセンスが与えられます。

Step 4 License Daemon の開始(ネットワーク・ライセンスの場合)

ネットワーク・ライセンスを購入された場合、以下の様にXRTのネットワーク・ライセンス・サーバと指定されたマシンで*xrtld*を開始します。

a) 指定されたマシンのルートにログインし、*XRTHOME*環境変数が定義されているか確認します。

b) "$XRTHOME/bin/xrtld"と入力します。既に、ネットワーク・ライセンスが存在し、*xrtld*が実行されている場合は、始めにこれをkillし、新しいライセンスを開始します。

c) static librariesをインストールした場合は、マシンのstart-upスクリプトにライセンス・デーモンを追加し、システムがリブートされる度に開始されるようにします。例えば、SunOSを使用するSunシステムでは、*/etc/rc.local*ファイルの最後に以下を加えてください。

```
XRTHOME=<directory where XRT distribution is installed>
export XRTHOME
if [ -f $XRTHOME/bin/xrtld ]; then
            $XRTHOME/bin/xrtld
            echo 'XRT license daemon started'
fi
```

Step 5 XRT ライブラリにライセンスを与える(shared license の場合)

Shared libraries を購入された場合は、購入した各ライブラリにライセンスを与える必要があります。(XRT PDS を購入された場合は、全てのライブラリに許可を与える必要があります。) *xrt_auth* を使用して shared libararies に許可を与えてください。例えば、SPARC Solaris 対応 XRT/table の場合は、次のようにしてください。

```
cd $XRTHOME/lib-shared
$XRTHOME/bin/xrt_auth libxrttable.so
```

shared libraries の名前は対応機種によって異なります。また、*$XRTHOME/lib-shared* は、*LD_LIBRARY_PATH*(またはそれに該当する環境変数)に加えてください。

AIX でライブラリに許可を与える場合

AIX では、shared library に直接許可を与えることができません。始めに、アーカイブからひとつの shared オブジェクト・ファイルを取り出し、そのオブジェクト・ファイルに許可を与え、古いアーカイブを削除します。次に、許可が与えられた shared オブジェクト・ファイルで新たなアーカイブを作成し、その後、そのオブジェクト・ファイルを削除してください。例えば、XRT/table では次のようになります。

```
cd $XRTHOME/lib-shared
```

```
chmod 666 libxrttable.a
ar x libxrttable.a libxrttable.o
$XRTHOME/bin/xrt_auth libxrttable.o
rm –f libxrttable.a
ar rv libxrttable.a libxrttable.o
rm –f libxrttable.o
```

ネットワーク・ライセンスと shared libraries

ネットワーク・ライセンスを使用している場合、ライブラリに許可を与えた後は、ライセンス・デーモン(*xrtld*)は必要ありませんので、killしてください。但し、sharedライセンスをアップデートした時は、(*xrt_auth* を使用して)ライブラリに再度許可を与えるために、*xrtld* を実行する必要があります。

Step 6 PPD ファイルのインストール(XRT/pageformatter のみ)

PPDは、特定のプリンタに対するオプションのリストや、それらのオプションを実行するコードを提供するファイルです。デフォルトでは、XRT/pageformatterは、一般的によく使用される Level 2 PostScript プリンタに対応する PPD ファイルを幾つかインストールします。CDの中には、そのほかのサンプルを多く提供する printer.ppd というファイルがあります。このファイルは、tar でコンプレスされています。PPD をインストールするには、$XRTHOMEディレクトリにアンコンプレスし、untarしてください。例えば、下記のコマンドは、該当するサブ・ディレクトリを作成しています。

```
cd $XRTHOME
zcat < /dev/cdrom/printers.ppd | tar xvf -
```

Step 7 PPD ファイルの設定(XRT/pageformatter のみ)

XRT/pageformatter は、*$XRTHOME/lib/ps* にある *printers* というファイルを調べます。このファイルは、XRT/pageformatterによってはインストールされませんので、独自に作成する必要があります。テキスト・エディタなどを使用して、*$XRTHOME/lib/ps* に *printers* というファイルを作成してください。この *printers* ファイルには、使用するプリンタと対応する PPD ファイルの名前を入れてください。

```
ps hp5m1_v1.ppd
ps2 hp4m3_v1.ppd
```

PostScript プリンタ・オブジェクトが作成されると、XRT/pageformatterは、Printerオブジェクトの名前または PRINTER 環境変数にマッチするプリンタ名を *printer* ファイルの中から調べます。次に、XRT/pageformatterは、*$XRTHOME/lib/ps/ppd*、*/usr/lib*、*/usr/lib/ps*、*/usr/local/lib*、*/usr/local/lib/ps* の中から、指定された PPD ファイルを探し、このファイルから使用可能なオプションとデフォルトの設定を調べます。

Step 8 Non-X システムへのインストール(XRT/pageformatter のみ)

X がインストールされていないシステム上で XRT/pageformatter プログラムをコンパイルする場合は、*noXsuppl.pf* にあるヘッダー・ファイルを直接にインストールする必要があります。このファイルをインストールするには、ファイルを$XRTHOMEディレクトリにアンコンプレスし untarしてください。たとえば、次のコマンドでは、該当するサブ・ディレクトリを作成しています。

```
cd $XRTHOME
zcat < /dev/cdrom/noxsuppl.pf | tar xvf -
```

Step 9 インストールのテスト(オプション)

デモ・プログラムのソースを書き込み可能な場所にコピーし、ビルド(static librariesの場合は*make*、shared librariesの場合は*make shared*)、実行することによって、インストールが正しく行われているかテストすることができます。

- XRT/3d -- *$XRTHOME/src/3d/demos*
- XRT/field -- *$XRTHOME/src/field/demos*
- XRT/gauge -- *$XRTHOME/src/gauge/demos*
- XRT/gear -- *$XRTHOME/src/gear/demos*
- XRT/graph -- *$XRTHOME/src/graph/demos*
- XRT/table -- *$XRTHOME/src/table/demos*
- XRT/pageformatter -- *$XRTHOME/src/pf/demos*
- Multi-product demos -- *$XRTHOME/src/common_demos*

その他、各製品には、(*$XRTHOME/src/product/examples* に)例プログラムが提供されています。

Troubleshooting

エラー・メッセージとその解決法です。

`Error: XRTHOME variable is not set`

環境変数はXRT製品がインストールされたディレクトリを指していなければなりません。.

`Error: Can't open license file for reading`

ライセンス・ファイルが存在しないか、システムが読み取りを拒否しています。または、最新のライセンス・ソフトウェアを使用していない場合にも、このようなメッセージが表示されます。
*$XRTHOME/etc/licenses*があるか確認し、その許可の状況を調べてください。もしファイルが存在しない場合は、*xrtpasswd*を実行し、ライセンス・ファイルを作成してください。

`Can't include file “Xm/<product>.h”`

デモ・プログラムの中には、複数の XRT 製品を使用するものがあります。必要な XRT 製品がインストールされていない場合、そのデモはコンパイルできません。但し、*$XRTHOME/demo* にあるプリコンパイルされたバージョンは実行できます。

`xrtld: No network licenses found for host "hostname"`

ライセンス・デーモンは、ホストの有効なネットワーク・ライセンスを見つけることができません。使用されているマシンが正しいか、ライセンス・ファイルがこのサーバの正しいエントリを持っているか確認してください。ライセンスの期限が切れている可能性もあります。問題が確認できない場合は、*xrtld -v*を実行し、ライセンス・デーモンがどのようにライセンス・ファイルを解釈しているか調べてください。

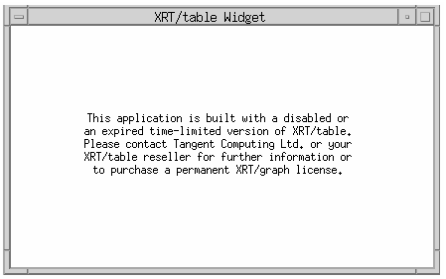
`xrtld: No socket connections made – aborting`

ライセンス・デーモンが有効なエントリを見つけても、それらのコネクションをセットアップすることができません。*xrtld -v* を実行して、問題の詳細を調べてください。また既に他の *xrtld* が実行されていないことも確認してください("ps"を使用)。実行されている場合は、それを kill して新たに開始します。もし他の*xrtld*処理が実行されていないことを確認した後で、*xrtld -v*が

```
xrtld: Can't bind to socket: Address already in use
```

と表示したら、ライセンス・ファイルに指定されているポート番号が他の処理で使用されています。この場合、*xrtpasswd*を他のポート番号(1024から32000)で再実行し、*xrtld*を開始します。

xrt_auth



アプリケーション(または shared licenseの場合のライブラリ)が、*xrt_auth* を使用して許可を与えられていない場合、XRT ウィジェットは数秒間表示され、その後右のようなメッセージが現れます。また、詳細なメッセージと回避法に関する情報が *stdout* に書かれます。*xrtpasswd* を使用してパスワードがインストールされているか、*xrt_auth* を使用してアプリケーションが許可されているか確認してください。
xrt_auth は常に最新のバージョンを使用するようにしてください。

`Warning: No PostScript printers defined in function Printer initialize`

$XRTHOME/lib/ps に printers というファイルを作成する必要があります。Step 7 を参照してください。

XRT/pageformatter アプリケーションの配布

エンド・ユーザに XRT/pageformatterを使用したアプリケーションを配布する場合、このアプリケーションは、XRT/pageformatterの AFM（または TFM）と、PPD 及び、*printers* ファイルにアクセスできるようにしてください。

日本語のサポート

locale について

localeの設定は、実行時にLANG環境変数の値によって決定されます。Localeの設定についてはご使用のシステムの資料をご覧ください。

XRTは次の事項を決定するために、現在のlocaleの設定を使用します。

1) プロパティ・エディタの.XRTファイルからCコードを生成する際のlocaleのサポート(XRT/graph)
日本語のlocaleでは、*xrt_gmf*はCの出力でlocaleをサポートするコードを生成します。(XRT/graph)

2) EPSF出力を生成する際の複合(Composite)フォントのサポート

XrtDrawPS()、*Xrt3dDrawPS(), XrtTblDrawPS(), XrtGearOutlinerDrawPS()*を使用してEPSF出力を生成するアプリケーションは、日本語のlocaleで実行されている場合、日本語の文字を扱うためにCompositeフォントを生成します。localeが設定されていない場合は、テキストはISO Latin1のコード化として扱われます。

アプリケーションは、現在のlocaleの設定が使用されるように、*XtAppInitialize()*のコールの前に、*XtSetLanguageProc()*のコールによってlocaleを初期化する必要があります。詳細はX Windowsプログラミングの資料を参照してください。

多くのデモ・アプリケーションは、シングル・バイト文字の符号化の要求のみを満たすfontlistを指定しています。従って、日本語のlocaleでは、不完全なfontlistに関連する警告メッセージが出力されます。これらのメッセージが出ないようにするには、LANG環境変数を設定して、"C"のロケールでデモを実行するか、または正しいfontlistを用いてデモをリコンパイルしてください。

例)
```
setenv LANG "C"              # C shell, or
LANG="C"; export LANG        # Bourne shell
```

日本語のデモが実行される時、これらのデモは、システムがSJISかEUCのどちらを使用しているかを調べます。ロケールがセットされていない場合や、app-defaultsファイルが読めない場合は、デモのテキストは英語で表示されます。日本語デモ用のapp-defaultsファイルは、*$XRTHOME/lib/ja_JP.SJIS*または、*$XRTHOME/lib/ja_JP.EUC*にあります。このapp-defaultsファイルを読む込むには、機種によっては、現在のロケール名から正しく符号化されているapp-defaultsファイルのあるディレクトリのリンクを*$XRTHOME/lib*に作成する必要があります。次のようにしてこのリンクを作成してください。(下記例のxは、"echo $LANG"コマンドで返ってくる場所を指します。)

```
ln –s ja_JP.EUC x
```

FontList リソース

全ての XRT 製品は、フォント・リソースの設定に Motif の fontlist を使用します。各フォント・リソースを設定せずに、XRT で日本語を表示するには、下記のように、XmNfontlist と XmNdefaultFontlist リソースが、.Xdefaults リソース・ファイルで日本語の fontlist にセットされるようにしてください。

```
*defaultFontList:  *-medium-r-normal--14-*:
*FontList:         *-medium-r-normal--14-*:
```

fontlistを明示的に指定せずに XRT/table で日本語を表示するには、xrtTblFontListSeries リソースが、下記のように.Xdefaults リソース・ファイルでセットされるようにしてください。

```
*xrtTblFontListSeries:  (ALL ALL *-medium-r-normal--14-*:)
```